

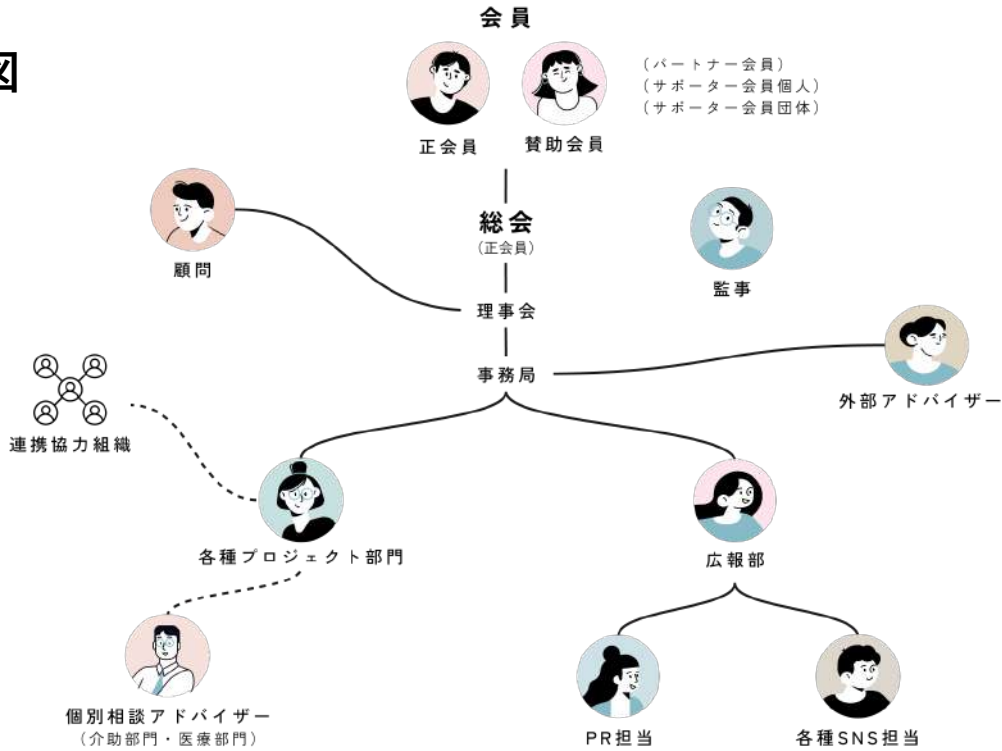
2024 年度事業計画

(2024 年 4 月 1 日 - 2025 年 3 月 31 日)

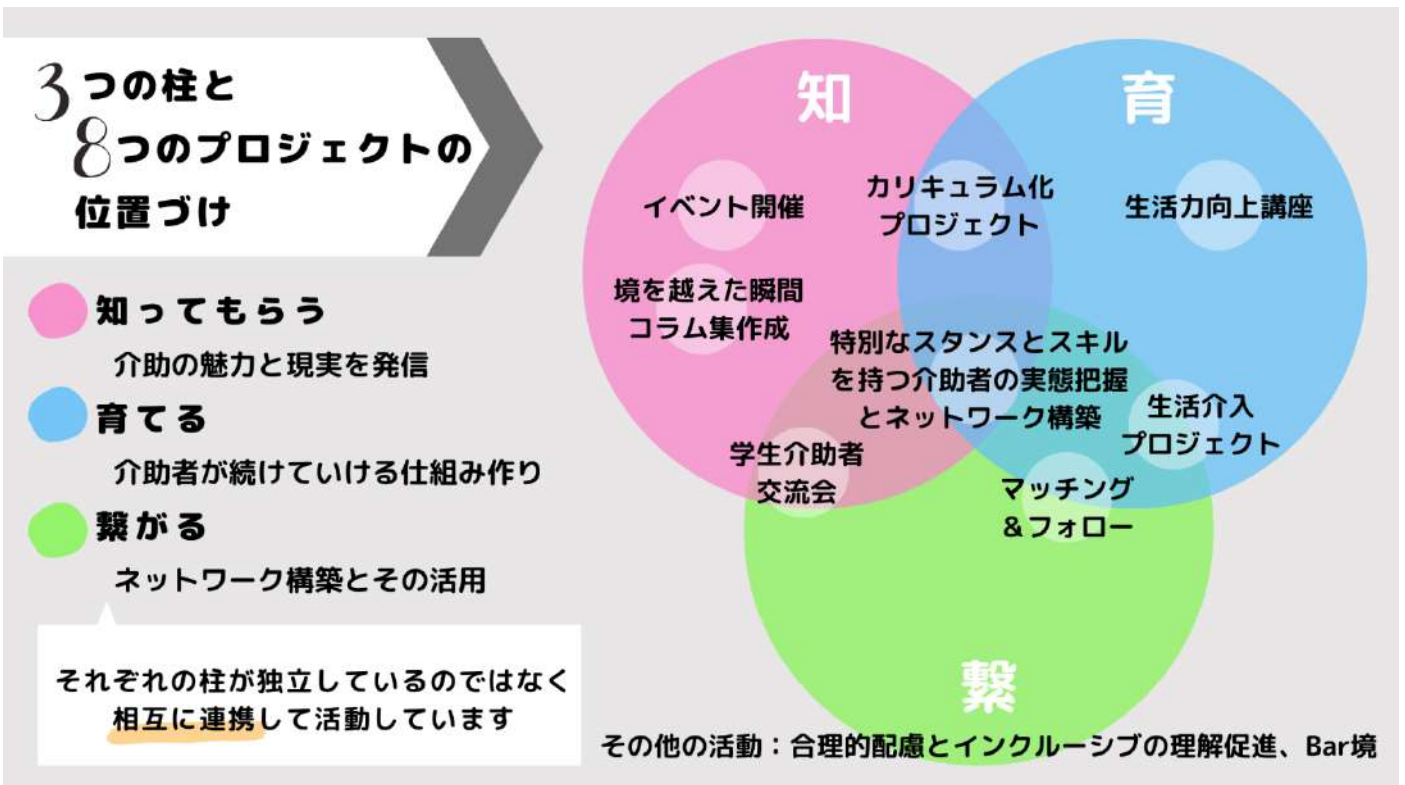
特定非営利活動法人境を越えて

●組織図(2024.6 現在)

組織図



●3つの柱と各種プロジェクトの位置づけ(2024.6 現在)

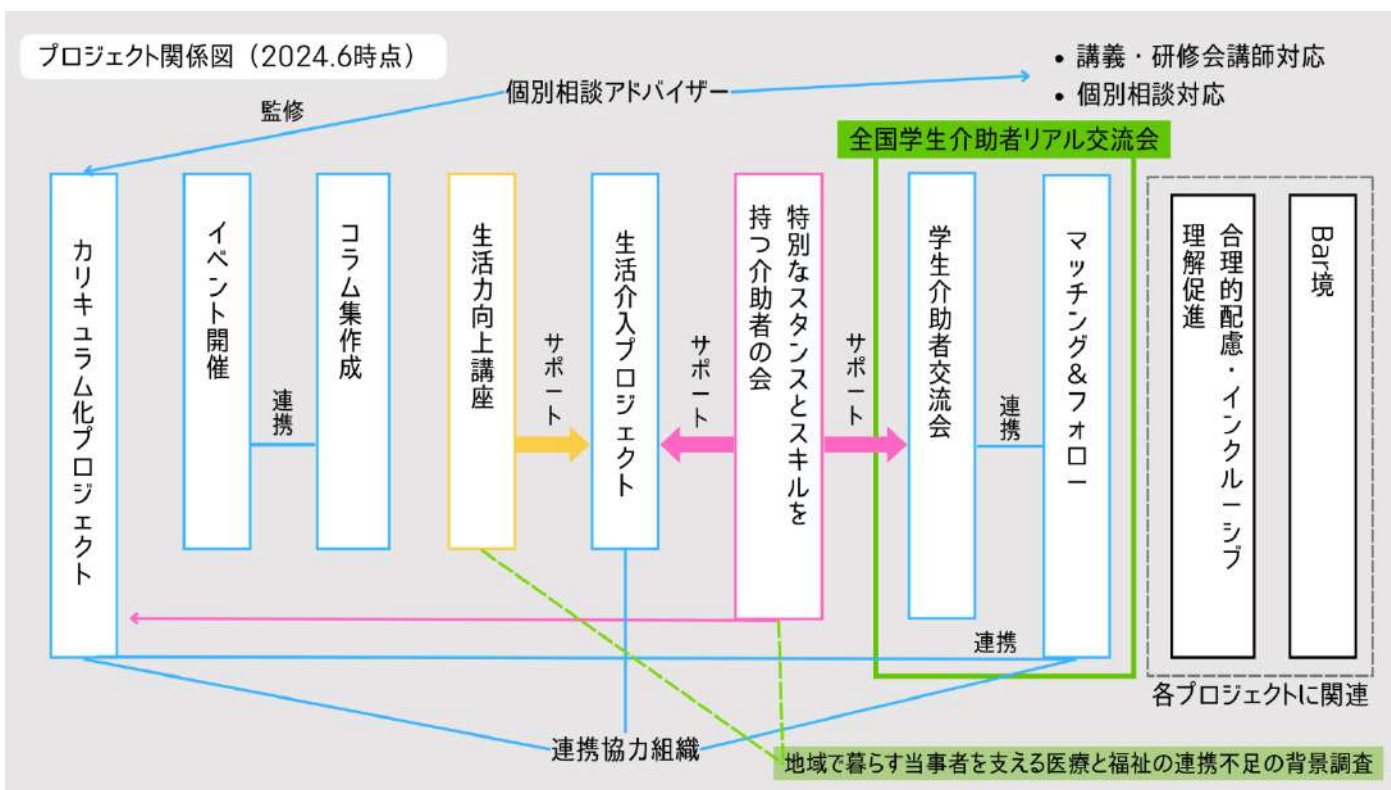


1. 事業実施の方針

6年目を迎え各プロジェクト毎に進捗レベルに差はあるものの、全体としては発展的な取り組みとなっている。例えば、カリキュラム化プロジェクトによって得られたネットワークが、生活力向上講座の周知に寄与した。このことは、当団体のプロジェクト全体が地域で暮らす当事者と支援者が求めていることと合致しているためだと考えられる。一方で、生活介入プロジェクトのような「個」を対象にしたプロジェクトは、新規介入までは難しく、フォローアップに留まっている。コーディネーター人材の不足が喫緊の課題であるが早急な解決は難しい。そこで、今年度からは「特別なスタンスとスキルを持つ介助者の実際把握とネットワーク構築」の新規取り組みとして、「悩める介助者のための交流会（随時・オンライン）」を開催し、介助者の継続支援に特化したサポートを行っていく。また、今年度初の取り組みとなる「学生介助者リアル交流会（三菱財団助成金）」は、学生介助者を知ってもらうことと、学生介助者継続のための課題と解決策を現役と経験者らで深堀することの2本柱で実施する。本事業の成果は、学生介助者の会とマッチング&フォローの仕組み化に生かしていく。

事務局運営は、特に拡大するカリキュラム事業のマニュアル化、大学側の役割を明確にすることで開催地域での事務局運営の土台を作る。また、PR担当（当事者：自らのSNSで公式SNS発信をフォロー/コラム集等を活用した周知活動）の増員に力を入れ、より広い情報周知、新規パートナー会員、サポーター会員獲得を目指す。また、NPO法人組織の信頼性の証となるグッドガバナンス認証獲得にむけ課題整理を進めていく。

●プロジェクト関係図



2. 事業の実施に関する事項

1)プロジェクト1【知】【育】カリキュラム化プロジェクト.....6,531,360円

目的:保健・医療・福祉を目指す学生の土台形成

事業計画【日本財団助成事業】

★帝京平成大学(8.8-10)、弘前大学(9.25-27)、★杏林大学(8.30-10.10)、東北文化学園大学(9.13-15)、日本医療大学(9.4-6)、★京都府立医科大学(5.8/11)、★山口県立大学(10.22/29/11.)★東京大学(2025.2.10-14)での開催(★は大学予算カリキュラムとして実施、他は来年度以降カリキュラム化決定)。開催地域での事務局運営を見据えた全国CIL、各種障害者団体等との連携構築。新規講師の育成、学生受け入れ当事者確保のためのネットワーク構築。

2)プロジェクト2【知】イベント開催.....1,577,180円

目的:地域で暮らす当事者とそれを支える介助者の現実と魅力を発信する。

事業計画:【日本財団助成事業】

「境を越えてフォーラム 2024～介助者だって当事者だ。Vol.4～」開催(6.22)。

3)プロジェクト3 【知】コラム集作成……………448,500 円

目的:執筆者を通して境の活動の広がり伝える

事業計画:【麒麟福祉財団助成事業】

「境を越えた瞬間」コラム集 Vol.4 の広報活動での活用、販売。「境を越えた瞬間」コラム集 Vol.5 の発行。

4)プロジェクト4 【育】生活力向上講座……………2,280,000 円

目的:地域で暮らす当事者・家族・支える介助者・医療者等へ知識と経験の波及

事業計画:

生活力向上講座リアル 2024 開催(2024.4.20)、生活力向上講座オンライン 2024 の開催(2024.11-3)

事業所、チーム向けの個別講習会の開催(2024. 6・11 決定/随時)、個別相談へのメール、オンライン、現地訪問によるアドバイスの実施(随時)。

5)プロジェクト5 【育】【繋】生活介入プロジェクト……………360,000 円

目的:介助者の募集、育成、継続に焦点をあてた第三者的視点での総合サポート

事業計画:

介入事例 11 例の内容精査、新規介入に向けたコーディネーター発掘、育成方法検討会の開催。フォローアップ終了事例からの不定期での相談対応を生活力向上講座講師、特別なスタンスとスキルを持つ介助アドバイザーらと連携して実施する。

6)プロジェクト6 【繋】【知】【育】特別なスタンスとスキルを持つ介助者の実態把握とネットワーク構築……………490,000 円

目的:重度障がい者への専門的ケアの体系化と介助者育成のための仕組み作り

重度訪問介護の専門性の追求と一般への理解を目指す

事業計画:【日本財団助成事業】

特別なスタンスとスキルを持つ介助者間での交換留学による介助スキルのリアル検証。介助エピソード集の作成。

「悩める介助者のための交流会」の開催(随時・オンライン)による介助者継続サポート。地域で暮らす当事者を支える医療と福祉の連携不足の背景調査を実施し、現場レベルでの連携不足解消の糸口とする。

7)プロジェクト7 【繋】【知】学生介助者交流会……………2,285,500 円

目的:学生介助者の一般への周知と学生介助者のフォローアップ

事業計画:【三菱財団助成事業】【麒麟福祉財団助成事業】

重度訪問介護資格を活用した学生介助者の育成と継続の仕組み作りとし、全国の学生介助者、学生介助経験者、当事者を対象とした 1 泊 2 日のシンポジウム開催(zoom 配信にて一般公開)と講習会&ワークショップの開催。(2024.8.24-25)その後、開催フォローアップとして、オンラインにて交流会の開催(2024.12 頃)

8)プロジェクト8 【繋】【育】マッチング&フォロー……………106,000 円

目的:介助をしてみたい学生と介助者が欲しい当事者を繋げる

事業計画:【三菱財団助成事業】

介助を行ってみたい全国の学生とその地域で介助者を欲している当事者とのマッチングの実施。特にカリキュラム化プロジェクト受講生のスムーズなマッチングを目指す。また、フォローとして学生介助者交流会への参加を促し継続支援を実施。

9)その他の活動

(1)合理的配慮・インクルーシブ理解促進(難病患者と共生社会実現のための活動支援)……………592,020 円

活動計画:【JPA サポート事業】

義務教育向けインクルーシブ運動会の開催(24.8-11)、「難病当事者と考える合理的配慮ってなんだろう？」差別解消を目指して～もしも〇〇店に〇〇な方が来たら～動画制作(通年)による合理的配慮の理解促進。義務教育向け授業「生きるってなんだろう」の開催。

(2)Bar 境

目的:会員同士のコミュニケーションの場の提供、オープンにしにくい相談等、参加者同士の意見交換の場とする。

活動計画:

パートナー・サポーター会員、正会員向け交流会のオンライン交流会の実施。毎月1回、第3金曜日 19:00-20:30を基本とした定期開催。5名限定、ゲストとのオンライン非公開茶話会。

3. 共催事業

1)海老原宏美基金

主催:海老原宏美基金

共催内容:事務運営サポート・広報活動

4. 事務局運営

1) 各種プロジェクト統括・調整

2) 理事会(年3回)・総会(年1回)管理運営

理事会:①5月18日(土)総会前内容確認 ②11月9日(土)前期の報告 ③2月15日(土)後期活動報告

総会:6月8日(土)

3) 会計管理:助成金4か所の別途報会計報告書含む

4) 会員管理:正会員:個人34 団体1

賛助会員:個人355(年会員 245名・月会員 76名・無料会員 25名) 団体25

5) 助成金申請・報告書作成:日本財団/キリン福祉財団/JPA/三菱財団

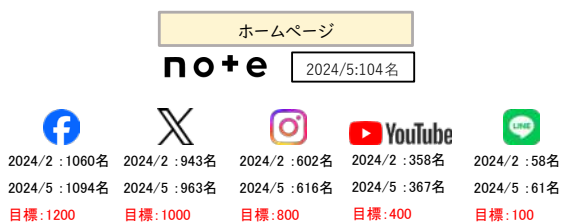
6) 正会員・賛助会員(パートナー・サポーター会員)向け情報発信

内容:定期配信:活動報告(毎月末/年2回)・境を越えた瞬間(電子版)・Bar 境開催のお知らせ

不定期配信:各種プロジェクト広報・報告

7)HP・公式 SNS 作成・発信(図)

公式SNS関係図と2024フォロワー数目標



公式SNS発信内容と活用方法

note	活動報告・コラム集(電子版)発行/毎月・各種プロジェクト告知・報告
	note記事シェア PR担当が個人SNSで周知
	note記事シェア
	Note記事シェア・ジョナ漫画発行/毎月
	フォーラム、生活力向上講座、特別なスタンスとスキルも持つ介助者の会周知動画等で活用
	note記事シェア、学生向け情報発信で活用

8) 個別相談依頼受付・対応

相談内容に応じて個別相談アドバイザー(医療部門・介助部門)や境を越えてネットワークを活用した相談者対応

9) 個人・団体向け活動説明会の実施

新規会員・ネットワーク構築を目的とした対面やオンラインを活用した活動紹介と意見交換。

10) 講演・講義・研修依頼受付・対応:依頼内容に即した講師派遣と対応

11) 学会報告・各種イベントへの参加

12) メディア対応

以上